

まえがき

本書は2011年に『キャリア開発と職業指導』として出版したものを、加筆・改訂し、小学校から大学、専門学校、諸外国のキャリア開発の動向も含めて、近年の社会変化に対応できるように『新時代のキャリア教育と職業指導——免許法改定に対応して』として出版したものである。

とりわけ、教育職員免許法等の教育関係法規も大きく改定され、2019年度から大学の教職課程は、再課程認定が行われ新しくなる。必修科目である「進路指導の理論及び方法」は中学校から高校教員までを通して「進路指導の理論及び方法（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む）」と改訂され、キャリア教育が教員養成に必要な内容として明記された。

本書はその変化にも対応できるようにし、執筆者もその道の専門家に新しく依頼した。前著は職業指導に焦点を当てたキャリア開発の書籍が少ないこともあってか、筆者等の予想していた以上に、大学の講義や高校の進路指導担当の先生方に活用され、貴重な意見や批判をいただいた。

2015年頃より、新規学卒生の就職者の中心が高校から専門学校、大学等の卒業生に移行した。雇用労働をめぐる環境も変化し、非正規雇用労働者の増加、過労死などの問題が発生している。

本書は第1章で、日本社会の変化と職業の大きな変革について述べ、AI化の進む近年の職業環境についても考察した。第2、3章では、キャリア開発の中核としての職業指導に焦点を当て理論的視点から論じた。第4章では、小学校から高校までの現場におけるキャリア開発・キャリア教育の実践について概説し、少数化している高卒就職者の職業指導にも紙数を割いた。さらに、今後増加が予測される大学卒や専門学校の就職予定者に対して、どのようにキャリア開発の指導、助言、援助等の支援を行うかについて解説した。さらに、この

種の本籍ではあまり触れられていない職場で生じる労働問題への対処についても説明を加えた。第5章では、欧米および東アジアのキャリア開発の状況について現地の訪問調査もふまえて記述した。

執筆中に職業倫理を考えさせる事件が何件かあった。無資格者に車の検査を任していた事業所、材料試験の結果を改ざんしていた鉄鋼メーカーなどである。職業というものを、現実の社会の中で人はいかに生計の維持、個性の發揮、社会的役割分担の3要素のバランスをとって生きていくかという営みと捉えるなら、現在の日本社会は、職業の社会的役割について認識の希薄化が目立つ社会状況にあるといえるのではないか。それは労働者が職業についての矜持をもちにくい雇用環境の変化とも深く関わっている。本書がキャリア開発の中核である職業指導に関心のある多くの読者に活用していただき、ご批判をいただくことを期待している。

本書を編集中に、編著者の一員であり重要な役割を果たしていただいた和歌山大学の佐藤史人教授が急逝された。あまりにも突然のことで呆然としている。この書籍は故人の共同研究者である仲間が先生の霊に捧げる書でもある。最後に出版に際して、お世話になった法律文化社編集部の小西英央、舟木和久、瀧本佳代の3氏に厚く御礼申し上げたい。

2018年8月 猛暑の京都にて

編著者一同